

パロキセチン錠5mg「JG」の安定性試験(無包装)

1. 試験目的

パロキセチン錠5mg「JG」を無包装状態で下記条件にて保存し、安定性を確認した。

2. 保存条件

- ・ 温度に対する安定性試験: 40°C 3か月
- ・ 湿度に対する安定性試験: 25°C/75%RH 3か月
- ・ 光に対する安定性試験: 120万lx・hr

3. 試験項目

性状、溶出性、含量、硬度<参考値>

4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

5. 試験結果

		規格	試験開始時	3か月後
温度	性状	帯紅白色円形のフィルムコーティング錠	帯紅白色円形のフィルムコーティング錠	変化なし
	溶出性(%)	30分間で80%以上	100(100-101)	102(100-103)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	98.9 [100]	99.3 [100.4]
	硬度(N)	参考値	42	49
	評価			—
		規格	試験開始時	3か月後
湿度	性状	帯紅白色円形のフィルムコーティング錠	帯紅白色円形のフィルムコーティング錠	変化なし
	溶出性(%)	30分間で80%以上	100(100-101)	102(101-104)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	98.9 [100]	100.6 [101.7]
	硬度(N)	参考値	42	9
	評価			—
		規格	試験開始時	120万lx・hr
光	性状	帯紅白色円形のフィルムコーティング錠	帯紅白色円形のフィルムコーティング錠	変化あり (わずかに黄色みを帯びていた)
	溶出性(%)	30分間で80%以上	100(100-101)	101(99-103)
	含量(%)	表示量の95.0~105.0% [開始時100%]	98.9 [100]	97.4 [98.5]
	硬度(N)	参考値	42	18
	評価			—

溶出性: 平均(最小-最大) 硬度: 1N≒0.1kgf

6. 結論

湿度及び光条件において、硬度の低下(規格外)が認められた。また、光条件において、錠剤の変色(規格内)が認められた。

**安定性の評価基準**

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

**【性状】**

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

**【溶出性】**

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

**【含量】**

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

**【硬度】**

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

**安定性の評価分類**

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2012年12月

002